

編集・発行：三重県環境生活部新博物館整備推進プロジェクトチーム

ともに考え、活
動し、成長する
博物館にむけて・建物が完成しまし
た …P1・「開館 1 年前イベ
ント」を開催しま
した～開館日は来
年 4 月 19 日(土)
に決定!～
…P2～3・新博のみっちゃん
…P2・基本展示室のみど
ころ紹介
…P4～5・新県立博物館には
驚きがいっぱい
博物館を歩いてみ
よう …P6・ただ今 調査研究
と資料収集をして
います …P7・新緑の里山ゾーン
…P8

・お知らせ …P8

建物が完成しました

The new Mie Prefectural Museum building has been completed.



平成 25 年 5 月 6 日現在の状況

三重県総合博物館（仮称）の開館まで残すところ 1 年を切りました。このたび、建物が完成し、4 月 17 日（水）に県への引き渡しを受けました。一見すると、「もう建物に入れるんじゃないの?」と思われるかもしれませんが、まだ入ることはできません。建物内部では、これから展示準備や引越しなどを進めます。また、建物のまわりでは外構工事が引き続き進められ、総合文化センターとの連絡通路工事も始まります。関係者一同一丸となって精力的に進めていきますので、開館まで今しばらくの間お待ちいただきますようお願いいたします。

CASBEE-S ランクを取得しました!

4 月 15 日（月）、建築物としての様々な取り組みが評価され、(財)建築環境・省エネルギー機構 (IBEC) の認証機関により、「建築物総合環境性能評価認証制度 (CASBEE)」の S～C ランク付けの、最高の S ランクを取得しました。

CASBEE とは、建築物を環境性能で評価して格付けする手法で、国土交通省主導の下、IBEC を中心に開発され、省エネルギー等の環境配慮はもとより、室内の快適性や景観への配慮なども含めた建物の品質を総

合的に評価するシステムです。三重県内での CASBEE-S の取得は 2 例目で、博物館としては、全国初です。今後は、建物の機能が十分に発揮されるように適切に使用しながら管理し、開館をめざして整備を進めていきます。(田畑 衛)



認証書

■評価された主な取り組み■

- ・免震工法の採用による耐震性の向上
- ・敷地内の豊富な自然環境（里山）の保全・活用
- ・維持管理および将来の更新に対応しやすいゆとりのある施設計画
- ・外断熱や外ルーバーなどによる外部負荷の低減化
- ・地中熱や太陽光発電などの自然エネルギー利用
- ・雨水の再利用

大発表会



養老孟司さんによる講演

午後からは、新県立博物館の隣りにある三重県総合文化センターの中ホールに会場を移して、「開館1年前大発表会」を開催し、約500名の方に参加いただきました。

冒頭、鈴木知事から「新県立博物館は、全国の皆さんに三重の魅力に触れていただく場、また、県民の皆さんに三重の自然や歴史・文化が持つ“すごさ”を改めて知っていただく場となる。そして、三重のことをもっと知ることで、三重のことをもっと好きになってもらい、みんなで三重を良くしていこうと思ってもらえるような“みんなの博物館”となることを目指していきたい。」と挨拶しました。

この後、布谷博物館長から、オープン日は来年4月19日(土)を予定していることや、開館時間、休館日、観覧料などの利用情報、基本展示(常



知事挨拶

設展)の内容、開館初年度(平成26年度)前半の企画展の計画などを紹介しました。

引き続き、東京大学名誉教授で「バカの壁」の著書などでおなじみの養老孟司さんによる講演と、布谷博物館長との対談が行われました。

養老さんは、昆虫に興味をお持ちで、国内や海外のフィールドや博物館へ何度も訪れているほか、京都国際マンガミュージアムの館長も務めていて、博物館の楽しさや使い方を熟知されており、「博物館にある資料という“本物”をみることによって何かを感じ取ることができる」「例えば自然や生きものなど、始めは何が楽しいかわからなくても、博物館に来れば、自分なりの興味や楽しさが分かるようになる」など、自らの経験を通じた博物館の楽しみ方や使い方などを語っていただきました。

また、大発表会の終了後には、新県立博物館の館内見学会も行われ、多くの方に“できたてほやほや”の博物館を体験いただきました。



館長から概要をご紹介します

これからも、開館に向けてみなさんに参加いただけるイベントを計画していきますので、ご期待ください。(山崎 章弘)



養老さんと布谷館長との対談

【三重県総合博物館(仮称)の各種利用情報】

※条例等の制定を経て正式決定する項目であり、変更となる場合があります。

■開館(オープン)日

- ・平成26年4月19日(土)

■休館日

- ・毎週月曜日(祝日の場合は翌日)
- ・年末年始(12月29日~1月3日)
- ・別途定める日(特別休館日:くん蒸など)
- ※例えば、夏休み期間や他館と連携した休館日の特別開館など、柔軟に対応していく予定です。

■開館時間

- ・エントランスエリア、交流創造エリア(学習交流スペース、こども体験展示室、三重の実物図鑑等)など、来館者の活動エリア
[休館日を除く全日] 9時~19時
- ・展示エリア
[火~金] 9時~17時
※例えば、ゴールデンウィークや夏休み期間には開館時間を延長するなど、柔軟に対応していく予定です。
[土、日、祝] 9時~19時

■観覧料等

- ・エントランスエリア、交流創造エリア(学習交流スペース、こども体験展示室、三重の実物図鑑等)など、来館者の活動エリア
無料
- ・展示エリア
表のとおり

料金表

	基本展示 観覧料	企画展示 観覧料	セット券 (基本展示+企画展示 料金の2割引)	年間 パスポート券
一般	500円	その都度 定める	基本展示+企画展示 料金の2割引	1,600円
高校生以下	無料	その都度 定める (無料を基本)	設定なし	設定なし
学生(大学、各 種専門学校等)	300円	その都度 定める (割引を基本)	基本展示+企画展示 料金の2割引	1,000円
障がい者及び その付添者	無料	無料	設定なし	設定なし
学校、児童 福祉施設と しての利用	無料	無料	設定なし	設定なし
県民の日の記 念事業の日	無料	正規価格	設定なし	—
家庭の日 (毎月3日曜日)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	—
団体割引 (20名以上)	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	設定なし
前売券	設定なし	正規価格の 2割引	正規価格の 2割引	設定なし

基本展示室のみどころ紹介

The new exhibition area's points of interest

このページでは、新県立博物館のさまざまなコーナーの魅力についてシリーズで紹介していきます。

交流のかたち ～人の交流～

Developing a guide-system for people to "Meet Ise"

三重を巡る交流の中でも、特筆される伊勢参宮を取りあげ、近世の御師屋敷を中心に繰り広げられた、神宮参詣の実態と、参宮客に対するおもてなしを展示します。

伊勢に七度

本年秋、伊勢神宮では、20年に一度社殿を建替え、御装束・御神宝を新調して神さまにお遷り願う第62回式年遷宮を迎えます。遷宮を契機に全国各地から、例年に増して多くの人々が伊勢を訪れ、大変賑わうことでしょう。

現在は、誰もが自由に参拝できる伊勢神宮ですが、古代には国家の祭神として私的な祈願は厳禁とされていました。

一方、中世後期に始まったとされる庶民の伊勢参宮は、世情が安定した江戸時代には、一層盛んになりました。「伊勢に七度 熊野に三度 お多賀(愛宕)様には月参り」と詠われたように、庶民

の参宮熱は時代と共に高まって行きました。

伊勢講を組織して

ただ、自由な旅が許されず、移動も徒歩が中心であった江戸時代には、例えば江戸と伊勢の往復のみでも約一ヶ月もの日数がかかり、伊勢で太々神楽を奉納することとなれば数十両にも及び多額な出費が必要でした。

このため、多くの場合、人々は伊勢講を組織して、講員全員で積み立てを行い、順番で代表が伊勢へ赴く「代参」、あるいは、数年に一度全員が参宮する「総参り」という形で伊勢を訪れました。また、経済的な余裕がある人の、個人的な参宮や商用などと兼ねての参宮も見られる一方、主



文政13年(1830年)のおかげ参りに用いられた柄杓

人や親の許しを得ず、路銀も持たない「抜け参り」も多く見られました。

おかげ参りに数百万人

当時の参宮は、毎年正月から春先の農閑期が中心で、年間数十万人が伊勢を訪れたと推計されています。

このような中で、おかげ参りと呼ばれる、突発的な集団参宮がしばしば

発生しました。とりわけ大規模なものとしては、慶安3(1650)年、宝永2(1705)年、明和8(1771)年、文政13(1830)年の4回が知られています。最大規模の文政13年のおかげ参りを記録した『御蔭参宮 文政神異記』には、宮川を渡った者が486万人、大湊や神社港などへ船で来た者は10余万人と記されています。人数は割り引いて考える必要がありますが、当時の日本の推定人口約3000万人からすれば、16%強、実に6人に1人が、約半年の間に伊勢を訪れたこととなります。

このように、江戸時代には、おびただしい人々が伊勢を訪れたのです。



おかげ参りで賑わう宮川の渡しの様子(歌川広重「伊勢参宮 宮川の渡し」)



今回はここ

参宮客がつけた記録

では、神宮がある宇治・山田（現伊勢市）到着後、参宮客はどう行動したのでしょうか。この実態を伝えるのが、「道中記」です。

江戸から明治時代にかけて、多くの参詣者が旅をこまめに記録していました。講のように集団でお金を積み立て、代表者が旅行する場合は、出納簿や参詣の報告書代わりになりました。旅に行かなかった人、後で行く人のためにも、細かな情報が必要でした。

研究を前進させ展示へ

道中記は、全国各地に膨大な数が存在します。そこで、道中記の研究をされている三重大学の塚本明先生の協力や、県庁の県史編さん班・斎宮歴史博物館職員の参加も得て、伊勢参宮を伝えるためのモデルケースを、現在練り上げています。

太々神楽をあげる参宮客

特に、注目しているのが、御師の邸宅で太々神楽とよばれる舞楽の奉納を頼んだケースです。

太々神楽は、特に準備が必要なため、御師とあらかじめ打ち合わせをし、参宮客が宇治・山田に迫ると、飛脚で連絡をとり

ました。御師側は、連絡を受けると、酒食を街道沿いの宿に泊まる参宮客に差し入れます。または、直接駕籠を迎えにやったりしました。

4泊5日以上滞在

そして、この後平均4泊5日の宇治・山田滞在があり、神宮参拝と数々のおもてなしが繰り返されました。新県立博物館の展示では、さらに豪華なプランもふまえて、江戸時代の伊勢参宮の幅広さを表現します。

1日目、宮川を舟で越えます。これは、「御師の御馳走舟」ともいわれ、自治組織の山田三方会合と宇治会合が運営し無料でした。川を越えると、茶屋のある中川原に至ります。そこに、御師の名と参宮客の名を記した看板がでていました。

客がこれを見て、名を告げると、御師へ連絡が行き、手代が駕籠などを用意し、迎えに来ました。この手代、毎年各地のなじみの檀家の元へ、御師から遣わされ、お札を配る役も担っていました。

二見を巡り御師の家へ

なお、各御師や参宮客によりパターンは多少異なりますが、最初に多く

の参宮客がいったのが、二見ヶ浦でした。海水で身を清める意味があったようです。

その後、宇治・山田の御師の屋敷へ到着となり、普通の宿にはない立派な門をくぐります。長旅を経て到着した参宮客は、ひげをそり髪を結いなおし風呂に入り、着物を改め、旅の汚れを取ってさっぱりしました。

多様な参宮プラン

その後2日間、太々神楽の奉納、神楽後の豪華な本膳料理、外宮・内宮参拝、朝熊巡りとあわただしく過ぎます。3日目以降は、志摩に足を伸ばして、伊雑宮や青峰山を参拝したり、鳥羽・二見を舟で海から遊覧したり、古市へ行ったり、芝居を見たりと、様々なプログラムが、用意されていました。

これらは、手代らと参宮客が相談して、設定していたようです。そして、最終日には再び宮川の渡しで、参宮客と手代は別れを告げるのでした。

知らぬ地でも親近感

しかし、これで手代と



参宮客と手代の出会い (伊勢参宮名所図会)

の関係が終わったわけではなく、地元へお札配りにやって来た際に再会する場合があります。なお、太々神楽は、先祖や村の人々が、過去に同じ御師のもとで奉納したことがほとんどですから、先祖らの神楽奉納時に掲げた記念額を、御師の屋敷で参宮客が目にすることもありました。

見知らぬ遠い地に来て、先祖の痕跡やなじみの手代など親しみをもてる仕組みが、昔の伊勢参宮にはあったのです。

展示ではこのモデルケースを軸に、参宮客の動きと、それを総合的にコーディネートする御師の活動を紹介します。

(杉谷 政樹、太田 光俊)



参宮客が記した道中記



参宮客を乗せた遊覧船 (蔀観月「伊勢参宮名所図会」)

新県立博物館には驚きがいっぱい 博物館を歩いてみよう

Come discover delightful surprises! Walk through the new Mie Prefectural Museum

このコーナーでは新県立博物館の魅力ある空間、展示室、収蔵庫などをシリーズで紹介していきます

三重の実物図鑑

The display room : Artifacts and Specimens of Mie

身近な三重の自然と歴史・文化に関する基本的な資料を美しく、図鑑的に展示

新県立博物館では、三重の自然と歴史・文化を総合的に紹介する基本展示室のほかに、「三重の実物図鑑」という展示室を設けます。少し聞きなれない言葉かもしれませんが、ご利用いただくみなさんに、少しでも多くの“実物”をご覧いただきたい、それもまるで図鑑をめくるように手軽に、そして美しく展示したい、これはそんな思いで設ける展示室です。

2つのコーナー

三重の実物図鑑は、自然系と人文系の資料を展示する、2つのコーナーからできています。

これは、展示の手法も、適した環境も異なる実物資料を、より間近にご覧いただくためです。例え

ば、自然の中でくらしていた動物や昆虫、そして植物などの生きものは、それぞれ活動していた明るい環境で見たほうが、本来の色や形がよくわかります。しかし、これと同じ光の量で、古文書や絵画を展示すると色褪せや紙の劣化を招いてしまいます。また、展示の手法も異なることから、コーナーを分けてご覧いただくこととしました。

自然系資料

自然系資料のコーナーでは、三重の豊かな自然の中で息づく、数多くの生きものたち、そして大地を構成する鉱物や化石などを展示します。特殊な資料というより、私たちの身の回りに住む多くの生きものの存在を実物

でご紹介します。

展示の方法は、収蔵庫をイメージし、資料を保存している状態に近い形で展示します。資料によって、どのような保存の方法が適しているのかも併せてご覧いただきたいと思います。

人文系資料

人文系資料は、5つのテーマで構成します。

- ①出土したモノ
県内出土の考古資料
- ②受け継がれたモノ
大切に保存されてきた美術資料
- ③継承されるワザ
伝え残すべき伝統工芸やその技など
- ④愛用されたモノ
日常的に使われてきた道具、民俗資料など
- ⑤受け継いでいくキロク

保存されてきた記録資料や新たに保存する歴史的公文書など

これらの展示では、個々の資料にスポットをあて、実物資料が持つ美しさと歴史の重みを体感していただくとともに、どのような経緯を経て収蔵されたのかをご紹介します。

また県内各地には、保存・継承を必要とする資料がたくさん残っています。三重の実物図鑑は、そんな資料に目を向けていただく、きっかけづくり部屋としての役割も担っています。

三重の地で育まれた資料の数々、時には三重を知る展示資料として、また時には「図鑑」として、幅広いご利用をお願いいたします。

(宇河 雅之)



三重の実物図鑑（自然系） 完成イメージ



草木文鉢



提重

ただ今 調査研究と資料収集をしています

Research, Investigation, Collection – Forming a reputable museum

はらいがわ

祓川～昔なつかしい原風景が残る神聖な川～

The Harai River where landscape is treasured and people are purified

三重県の松阪市・多気町・明和町の平野部を流れる祓川は、新しく赴任してきた斎王が斎宮に入る前や、江戸時代の旅人が伊勢神宮に参拝する前に禊ぎをしたことに名前が由来しています。平野

部ではめずらしく流域のほとんどが自然護岸で河畔林が良く発達し、そこにはたくさんの昆虫や鳥類が棲んでいます。特に水中は淡水魚類が約30種、淡水二枚貝類7種が生息し、これは東海地方

で1、2位の種数の多さで、昔ながらの豊かな自然をもっています。また、地域の住民の方々が自然を大切に管理しながら、上水道や農業利水、学習、および憩いの場として親しんでいます。新県立博

物館では、基本展示室の「平野のくらしと自然」のコーナーにおいて紹介する予定で、現在、上空からの景観や水中での生きものたちのざわめきを撮影して映像をつくっています。（北村 淳一）



下御糸小学校と祓川環境美化推進協議会、三重県立博物館が協働で実施した水生生物調査



河畔林が覆う祓川

伊勢講の調査～サポートスタッフ民俗グループの取り組み～

Research in Isekou, an association for religion of the Ise shrine, by the Mie Prefectural Museum folklore research group

「伊勢講」とは、資金を出しあって代表者を伊勢参宮に送り、お札などをいただってくる地域のグループのことです。かつて伊勢には、全国からこのような「講」を代表した参宮者が多く訪れましたが、神宮のおひざもとである三重県の人びとの参宮については、実はあまりよく知られていません。

そこで、サポートスタッフの民俗グループでは、平成22年度から「地域に残る「伊勢講」の調査」をはじめることになりました。メンバーが、それぞれの地域で伊勢講

について知っている方を訪ねて、講の名称や構成員、参宮の時期などについてお話を伺い、分かったことを調査カードに書き込みます。こうして各自が聞き取り調査をした結果を、毎月の民俗グループの例会のときに発表し、みんなで和気あいあいと意見交換をしています。グループの担当学芸員の門口も、毎回報告を楽しく聞かせていただいています。

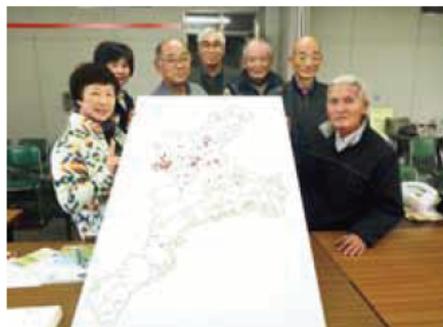
また、今年度末に刊行を予定している中間報告書の準備として、調査カードの内容を表にまとめたり、三重県の地

図に伊勢講の分布をシールで表したりする作業も進めています。現在、100ヶ所を超える県内の伊勢講について知ることができましたが、これはメンバーが情熱を傾けて調査を続けてきた大きな成果です。今後、さらに調査を発展させていきたいと思っておりますので、もしみなさんのお住まいの地域で、伊勢講に関す

る情報がありましたら、ぜひ博物館へお寄せください。（門口 実代）



調査カードの入力作業



みんなで作った三重県内の伊勢講分布図

新緑の里山ゾーン

The forest area of the new Mie Prefectural Museum

サクラの季節が終わると、フジの花が咲く季節へと移り変わります。

このように春は、花々に目が行きがちですが、様々な木々の変化を観察できる季節でもあります。

アラカシやクスノキなど一部の常緑樹の若葉は、赤く色づいた状態で

伸び始めます。これは、まだ若くて葉緑素が十分に無い若葉が、太陽の光（紫外線）による悪影響を受けないように、赤い色で身を守っていると考えられています。

クスノキは4月から5月に大量の葉を落とします。落葉というと秋をイメージしますが、これ

はコナラなどの落葉樹の場合であって、冬も葉を落とさない常緑樹は、落葉の時期が決まっていない種類が多くあります。

コナラなどの落葉樹は枝の先端の芽から若葉を広げると同時に花を咲かせています。サクラやツツジなど鮮やかな色彩の花と比べると地味です

が、みずみずしい若葉と花、そしてそこに集まる昆虫など、興味を引くものがたくさんあります。

このように、ミュージアムフィールドの里山ゾーンでは、季節の移り変わりを感じさせるさまざまな自然の姿を常に見ることができます。

(松本 功)



アラカシ



クスノキ



コナラ



タブノキ

お知らせ

Event Information

同定会「標本の名前をしらべてみよう」

日時 8月18日(日) 10:00~15:00

場所 新県立博物館 交流展示室

普段の生活の中で、生き物や石を見て、これはいったい何という名前だろう、どんな特徴があるのかなと思ったことはありませんか？そんな疑問に答えるために今年も同定会を行います。専門の先生といっしょに楽しく標本の名前を調べてみましょう。ぜひ、ご参加ください。

開館前ワークショップ「100年残す!? 三重のモノ、コト、ワタシ」(仮題)

日時 8月24日(土) 13:30~16:30(予定)

場所 新県立博物館

あなたなら、100年後の世界に何を残したいですか？開館前の博物館を舞台に、モノやコトを「残す」ことの大切さを、みんなで考える参加型ワークショップを開催します。

こども会議

日時 9月8日(日)

場所 新県立博物館

シンポジウム「伊勢をめぐる人・モノ・文化の交流(仮題)」

日時 10月6日(日)

場所 三重県総合文化センター 小ホール

三重しぜん文化祭 in くわな

日時 10月26日(土)~27日(日)

場所 桑名市民会館

お問い合わせ

三重県環境生活部新博物館
整備推進プロジェクトチーム

〒514-0006 三重県津市広明町 147-2
三重県立博物館内

TEL: 059-228-2283 (代表)
FAX: 059-229-8310
E-mail: shinhaku@pref.mie.jp

新県立博物館の情報は、
ホームページでご覧いただけます。

<http://www.pref.mie.lg.jp/SHINHAKU/HP/>